



こうべ森の学校だより

No.78
2017年9・10月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

ごあいさつ

伊藤ハム株式会社 谷口彰彦



こうべ森の学校の皆さまこんにちは。伊藤ハムの谷口と申します。8月から、こうべ森の学校の弊社の窓口をさせて頂くことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。

「あなたは山派？海派？」と尋ねられたら、迷わず「山」と

答えます。私が山派になったのは、小学校5年生のボーイスカウト入隊がきっかけでした。ボーイスカウトの主な活動場所は、キャンプ、ハイキングなどといった野山です。その活動地は、生まれ育った滋賀の湖南アルプスでした。「アルプス」と言っても標高600mほどですが、風化した花崗岩が露出した様子は、日本アルプスを連想させる魅力あふれる山域です。

私たちは、整備されたキャンプ場ではなく、灌木を切り開かるところにテントを張ることを旨としていましたので、ブッシュ刈りがキャンプ初日の大仕事でした。この作業は、今思い返すとなぜかノコギリでなくナタが活躍

していたように記憶します（伐採と薪割が1本で済むためかも知れません）。小学生だった私たちでしたが、大けがをした者がいなかったのは、隊長や上級リーダーの指導によるところが大きかったと思います。ヒヤリ・ハットの学習経験に基づいて、「どんな使い方をすると危ないか」「安全な薪割のコツは」といった実地指導が行き届いていたようです。

学生卒業まで続けていたボーイスカウト活動でしたが、就職で出身地を離れましたので、この活動も“卒業”となりましたが、山派はそのまま継続し、同僚や友人と登山やスキーに傾倒しました。

のちに神戸に移り住むことになり、六甲の山々に出会うことができたのは幸運でした。この山々の素晴らしさは、皆さんが十分ご存知のことですが、私なりに言わせていただくなら、こんなに市民に身近な山はない！ということなのです。

このたび、こうべ森の学校のお手伝いができることとあって、わくわくしております。若い世代にも親んでもらえるような、楽しくも安全に心掛けた活動になるよう、微力ながら努めますので、ご指導のほどお願い致します。



8月20日 例会の集合写真

「森学」生物多様性シンポジウムに参加

藤原 恒夫



パネラーのみなさん

2017年9月16日神戸国際会議場にて生物多様性シンポジウムが行われました。

正式名称は国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

第7回生物多様性全国ミーティング&生物多様性自治体ネットワークフォーラム神戸市生物多様性シンポジウムというものです。

UNDB-Jとは2010年に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋市で開催され『愛知目標』が採択されました。翌年、愛知目標の達成に向けこの国連生物多様性の10年日本委員会が立ち上がりました。愛知目標とは簡単にいうと、2020年までの10年間に、各国において生物多様性の損失に対処し、回復し、保全して持続可能なものにする20の目標です。

生物多様性全国ミーティングは2011年名古屋市をスタートに毎年全国持ち回りで開催されております。今回は神戸港開港150周年記念もあって神戸市に決まった



生物多様性応援キャラクター

ようです。われわれのシンポジウム参加については、6月に神戸市環境局から打診があり、『こうべ森の学校』のPRにもなるので引き受けることにしました。

我が「森学」は、市民(ボランティア)、企業(伊藤ハム)、行政(神戸市)の三者によって成り立っています。表舞台には、時間の関係もあり森学と伊藤ハムさんの二者が発表、パネリストとして参加することになり、三者で内容を協議しました。

さて、当日は台風による雨模様にも関わらず、多くの来場者がありました。

環境省小林顧問、久元神戸市長、UNDB-J委員会から涌井氏(TVでよく見かけます)の挨拶がありフォーラムは進んでいきます。

次に、地球いきもの応援団・生物多様性リーダーの大桃美代子氏(タレント)の基調講演。彼女がこのような活動に関わってきたきっかけ(大阪滞在中に「阪神淡路

大震災」に遭い、「中越地震」を新潟県魚沼市の実家に帰省中に経験された)等の話から、実家農業から見えてきた環境問題へと興味深い講演でした。

続いて環境省からUNDB-Jの説明。CEPAジャパン事業、グリーンウェイブの取り組みの説明があり、UNDB-J認定連携事業表彰式となります。

22団体の表彰でしたが、その多様な事業の取り組みに感心させられました。全国には多くの人々が生物多様性に関わる活動をしているのには勇気づけられました。また、これが世界中に広がっているのだと思えば、地球環境保全にも期待が膨らみます。

ここで20分の休憩を挟んで、いよいよ地元神戸の4団体の事例発表です。

トップバッターは『玉一アクアリウム』さん。明石川における活動を小学生達がとっても元気に立派な発表をしていました。二番手は『兵庫運河の自然を再生するプロジェクト』さん。元気な小学生の後、チョットやりにくそう。でも、あの汚かった兵庫運河がとってもきれいに。多くの生物が戻って来ているのにビックリしました。やれば変わる!ですね。

そして三番手は我々『こうべ森の学校』です。先ず、伊藤ハムの谷口彰彦さんから企業の社会貢献、環境への取り組みを紹介。市



こうべ森の学校の発表

民、企業、行政の三位一体の森学の成立の説明して頂きました。続いて、私が活動現場を紹介。森学のPRをしました。四番手はコープこうべ『チームエコーズ』さん。「食卓から生物多様性をみる」と題しての発表。さすが環境問題といえば生協さんですね。お見事です。

これからパネルディスカッションに入り、先程の発表者が再び登壇します。コーディネーターは『人と自然の博物館』の中瀬勲館長です。中瀬氏の巧みな進行でディスカッションも順調に終わりました。パネラー、やっここでホットする。最後にBlueEarthProjectの大学生、高校生がサンゴ礁を守る活動報告。若い人のこのような活動はいいですね。未来に繋がります。かけがえのない地球を次世代へ!

締めくくりは、次回開催の鹿児島市へバトンタッチ。つながれ全国へ!世界へ!

九州北部豪雨の災害支援活動

木下 英吉



ボランティアが集合

7月5日の発生から2ヶ月半を過ぎた9月23・24日、ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社協のボランティア活動支援部門）の4回目のボランティアに20名が参加しました。今回は福岡県朝倉市（現在、死者31名、行方不明4名、70名が避難されている。当市は、行方不明者の捜索を最優先していたため、災害支援活動が遅れていた）の北西部杷木松末（はきますえ）地区での災害支援です。当地区は、県道52号線から北西部に入った谷谷の集落で、川の氾濫といたる所での山腹崩壊により2Km程の道路がなくなってしまう、道路・電気・水道等の復旧が急務で、一般車両は通行止めで、工事車両・災害支援車両・地元住民等の限定通行となっています。この日も、あちこちで道路復旧の大型パワーショベルが稼働していました。

23日（土）は2手に別れ、裏山から流出した土砂の搬出と私達10名は床下に流入した泥出しです。4部屋のうち2部屋は、過去6回の作業で完了していて、床板を剥がし根太（ねだ、床板を支えている横木）が剥き出しになっていました。手付かずのフローリング2部屋の床板はそのままにしてほしいとのことで、完了した部屋から床下に入る作業

となりました。床下に入り泥を手箕（テミ）に入れる（60cm高程の床下に隙間なく詰まっている土砂を腹這いになって、バールで崩し・十能やスコップで運び出し）・手箕から一輪車に移す・4台の一輪車で仮置き場に運ぶ分業で、30分毎に休憩を入れながら、参加者それぞれができる作業を交代しながらひたすら続けましたが、この日は完了できず次回に引き継ぐこととなり、ボラセンに作業報告を済ませ、本日の活動を終わりました。

24日（日）も同じお家での床下からの泥出しで、福岡市から駆け付けた5名と協同で昨日の続きを進めました。昼食時には、お家の方（70代）に話しを少し伺い、「生まれた時から住んでいるが、初めての出来事で、裏山が崩れ、土砂・杉の大木が堰堤を超えて一気に押し寄せた」とのことでした。このお家の庭には、金木犀が金色の花をつけ、辺りの様相の中に映えて映りました。終日作業を続けたが、奥1m程が残ってしまい、後日に引き継ぐこととなりました。

付近を見渡すと、それぞれの家毎で片付けに追われていて、手付かずの家が目立ち、早期に多くの人手の必要性を感じました。



裏山からの土砂崩れ

こうべ森の学校に参加させて頂いて

スタッフ1年生 米山 裕昭

『こうべ森の学校』に参加させて頂くようになり、早いもので4年半が経ちました。

当時、私は肥満改善の為に山歩きを始める決意をした頃でした。

そうこうしているうちに少し山歩きを楽しめる様になり体力的に余裕も出来て、六甲山に関わる事で何か面白いものはないかなぁ・・・と模索していました。

そんな時、神戸新聞主催の六甲山大学のチラシを見て『こうべ森の学校』の活動を知り単純に山歩きの一環として参加したのがきっかけでした。その為、参加した当初は午前中のみ『こうべ森の学校』に参加して、午後からは活動に参加せず山歩きに興じるという中途半端な活動状況でした。参加し始めて2年目の正月などは、お善哉用の器を持ってログハウス前に行くと誰一人居られず、月例会は前日だった・・・と呆然として帰宅した時もありました。

それでも次第に月に一度のこの活動に参加したい！午前中だけでなく午後からも終日参加したい！と、言う気持ちが膨らんで行きました。森に居ると日常を忘れて、木を切る事に没頭できる・・・この事は今まで私が知らなかった

新鮮な体験でした。

そうして森の学校の活動にドップリ嵌ってしまい、毎月参加する事が本当に楽しみで仕方なくなっていました。

そういう状態でしたので、参加させて頂くようになったきっかけは決して「強い志があった！」といった事ではありません。

昨年の10月頃だったでしょうか、スタッフにと声を掛けて頂き、嬉し驚きで今日に至っております。

『こうべ森の学校』で山の作業を毎回教えて頂く中で、先輩諸氏の知識の深さに感動し先輩に少しでも近づきたい！と思い、今年度は森林ボランティア講座を受講しております。

ダイエットの為に山歩きを始めたのがきっかけではありませんが、六甲の山々が大好きになり、この活動に参加させて頂いていることを誇りに思っております。これからも山の活動を楽しみたいと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。



■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
8月20日(日)	58名	河合さん	16名	17名	11名	6名
9月9日(土)	43名	佐藤さん	18名	12名	6名	3名

お知らせ・掲示板

◆森の文化祭

10月29日(日)
森の文化祭2017
が再度公園にて開
催されます。



この行事は県内
各地の森林ボラン
ティア活動をしている仲間が集まって、活動内容を市
民の方に知ってもらい、また団体相互の交流を行うも
のです。皆様のご来場をお待ちしております。

◆バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮
～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミン
ト神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分
発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行
はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年
運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗
り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の
学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されてい
ます。こちらもご利用ください。

◆こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は10月29日(日)
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆摩耶の森クラブ

次回の開催予定日は10月29日(日)
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボラン
ティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされ
ていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月
1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まい
の市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

- ・月例会 11月11日(土)・12月17日(日)
午前中は全員で森の手入れを行います。午後は
自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択を
していただきます。
- ・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわた
り伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて
運営されています。

■第38回藤木祭



10月1日(日)
芦屋市高座の滝
にて第38回藤木
祭が開催されま
した。この行事
は日本の近代登
山の発展に寄与した藤木九三さんをはじめ岳友を偲び、
登山の発展と安全を誓う祭典です。今回は神戸大学の
武田義明名誉教授をお招きして、六甲山の植生につい
て判りやすく解説していただきました。

編集後記

東お多福山で活動をしていた時に、通りすがりのハイ
カーから、「向こうにリンドウの花が咲いていましたよ。」
と声をかけていただきました。キキョウ、オミナエシな

■東お多福山・草原保全再生研究会

10月4日(水)

秋の植生調査 &
ササ刈りが行われ
ました。この日は
今まで手付かず
だった東お多福山



の南側斜面のネザサ刈りを行いました。2m以上の高さ
のネザサに手こずりましたが徐々に範囲を広げていきま
す。次回以降の活動は11月25日(土)、12月9日(土)
いずれも晩秋のネザサ全面刈りの予定です。

ど植生が豊かになっていく確
かな手ごたえを感じました。

これからも皆さんのお力添
えをお願いします。(斉藤 豪)

